

La morte del Maestro C. A. BRACCO

Come una face che, dopo aver brillato di vivida luce nel pieno suo rigore, si spegne poi a poco a poco, mancando dell'alimento rivificante, così si spense il caro ed amato Maestro C. Adolfo Bracco nella verde età di anni 45, il giorno 22 gennaio, compianto da tutti i suoi cari, compresi numerosi amici ed ammiratori.

さらに正確を期するためには戸籍を調べなければならないとのご返事でした。

このような経緯からイタリア人についてイタリアと異なった氏名を用いるべきではないと思いますので、他に何らかの反証が出るまではオルランディ教授の解釈を尊重して「Bracco」のフルネームを「Carlo Alberto Bracco」と理解することにしたいと思います。

次に「マンドリンの群れ」という曲名について申し述べます。日本語で「群れ」という言葉は通常例えば「人の群れ」「羊の群れ」「蟻の群れ」というように動物について使われますが、器物については使われません。例えば「机の群れ」とか「椅子の群れ」などとは言いませんので、マンドリンという「楽器」について「群れ」と呼ぶことは極めて不自然だと思っておりましたところ、先日の関東支部総会後の懇談会で日比野俊道先生から同じご意見を承りました。

これについて1905年5月5日にイタリアのローディ（註：LODIはミラノの東南約30kmの都市）で、ヴィタ・マンドリニスティカ社主催のマンドリン・フェスティヴァルが開催され、その模様についての記事がリコルディ社発行の「MUSICA E MUSICISTI」という音楽雑誌に掲載されているものを、マンドリン史研究家・工藤哲郎先生が国立音大附属図書館で見つけられて、その記事のコピーを頂いたことがありました。（註：この記事に掲載されている写真がたいへん珍しいので本部会報（No. 90=1987. 12. 1.）に転載しました。）

その催しの中で、この曲「マンドリンの群れ」がA. ヴィッツァーリの指揮で演奏されたという記事が載っていますのでその部分を次に転載します。

Furono assai gustati ed applauditi anche la fantasia *Raggio di luna* del maestro Vastano e la sinfonia *I Mandolinisti a Congresso* del maestro A. C. Bracco, diretti dalla nervosa bacchetta del maestro Vizzari.

これにはご覧のように「I Mandolinisti a Congresso」と印刷されています。これを直訳しますと「会議への（での）マンドリニストたち」となりましょう。イタリア人が「I Mandolinisti」と書いているのですから、これはマンドリンという楽器のことではなく、マンドリニスト（人）たちのことに違いないと思います。

確かに原譜の曲名は「I MANDOLINI A CONGRESSO」とありますが、マンドリンが会議を行うわけはありません。集まって会議を行うのはマンドリニストです。これを擬人法と解釈して現状のままでも良いという考え方もありましょうが、この際「マンドリニストの集い」または「マンドリンの群れ」のいずれかにしたいと思います。できれば昔から圧倒的に多く「群れ」を用いた例が多いので、今後は「マンドリニストの群れ」と表示することにしようではありませんか。

なお、P. J. ボーン著の「THE GUITAR & MANDOLIN」をお持ちの方は P. 56 をご参照ください。そこにブラッコの没年を1903年と載っておりますが、前掲死亡記事の発行が1905年2月15日付で最後の月の22日に亡くなったとありますので「1905年1月22日」が正しいように思います。

（おわり）